

外部評価結果（総括）

外部評価委員： 松浦成昭

【評価結果】

■問題や不十分な点はない。

□一部問題や不十分な点がある。

□全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

北信6大学がそれぞれの特徴を活かして、第4期がんプロの3つのテーマにふさわしい教育コースを設置し、人材養成を行うことで超少子高齢化の進んだこの地域のがん医療の向上への貢献が期待されます。今年度は年度途中からのスタートで、入学者がほとんどなく、実施計画、運営体制、準備状況などの評価が中心となりますが、全体として良い評価が与えられると思います。特に、多職種連携演習、研修やセミナーまた市民公開講座も各地でたくさん実施され、がんプロ事業が順調に滑り出していることをうかがわせます。

これまでのがんプロを土台に、素晴らしい事業計画を立てて、実行可能な運営体制を作り、準備も十分に整いました。次年度から、6大学が協力して計画通りがん医療人材養成が進むことを期待したいと思います！

(優れた点)

・学長連携協議会をトップに、次世代北信がんプロ運営協議会が主体となって、4つの委員会を設置して、全体としてよい運営体制を作っていると評価できます。

・各大学が自分の強みを活かした教育コースを設定していることは優れた点です。

・推進委員の所見を受けて、迅速に富山大学に腫瘍循環器コースを設置したことは評価できます。

・一部のインテンシブコースは今年度の10月から開講しており、非常に早いスタートと思います。

・いずれの大学もたくさんのセミナーを実施し、市民向けの講演会も多いことは評価できます。

(改善を要する点)

・各大学が独自に事業をやっていることが前面に出ており、6大学が交流・連携することを考慮頂きたいと思います。

・今年度、インテンシブコースの一部は開講しましたので、その実績を示して頂き良かったと思います。

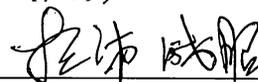
・各大学がたくさんセミナーを実施していますが、がんプロ主催・共催の表記がないものが多数見られました。がんプロの教育の一環であるなら、明示して頂きたいと思います。

・セミナー、講演会などのアウトカムも明確にして頂きたいと思います。

・ホームページの情報発信は大切ですが、北信がんプロのHPは学生向けには良いのですが、一般市民向けには少し不十分な所があると思います。各大学のホームページはどれもわかりやすくよく出来ています。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員：



（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

北信6大学がそれぞれの特徴を活かして、第4期がんプロの3つのテーマにふさわしい教育コースを設置し、人材養成を行うことで超少子高齢化の進んだこの地域のがん医療の向上への貢献が期待されます。今年度は年度途中からのスタートで、入学者がほとんどなく、実施計画、運営体制、準備状況などの評価が中心となりますが、全体として良い評価が与えられると思います。今後、6大学が協力して、計画通りがん医療人材養成が進むことを期待します。

全国のがんプロ拠点の中で、北信がんプロの教育コース、養成目標人数は最も少ないので、質を高くして頂きたいと思います。文科省の設定した3つのテーマの中ではテーマ3（新規治療開発）を最も重視しており（北信がんプロのみで、ほとんどはテーマ1重視）、ゲノム医療に強い大学が多いことを反映していると思います。

（優れた点）

- ・学長連携協議会をトップに、次世代北信がんプロ運営協議会が主体となって、4つの委員会を設置して、全体としてよい運営体制を作っていると評価できます。
- ・上記のように北信がんプロはテーマ1が少ないのですが、推進委員の所見を受けて、迅速に富山大学に腫瘍循環器コースを設置したのはすばらしいと思います。
- ・一部のインテンシブコースは今年度の10月から開講しており、非常に早いスタートで、他拠点に先駆けていると思います。
- ・多職種連携演習であるオンコロジーセミナーを3回、IPW緩和ケア事例検討会を4回と活発にしておられて、参加者も多数を確保しているのは敬意を表します。がんプロ履修者もかなりいるようで、教育効果もあると思います。
- ・いずれの大学もたくさんのセミナーを実施し、市民向けの講演会も多いことは評価できます。私もいくつかウェブ参加させて頂きました。金沢大学の国際シンポジウムはハイレベルのものでした。

・第3期がんプロで信州大学は認定遺伝カウンセラーの養成に実績を残しましたが、引き続き第4期がんプロでも人材養成を期待します。

・相対的に看護師の養成が少ないのですが、長野県看護大学が新たに加わり、活発な活動をしており、期待したいと思います。

(改善を要する点)

・せっかく特徴を持った6大学が参加しているので、互いに交流・連携することを考慮頂きたいと思います。

・今年度、インテンシブコースの一部は開講しましたので、その実績を示して頂きたかったと思います。資料で明示されていたのは福井大学のシームレス型緩和医療コース、栄養管理コースがそれぞれ2名の実績があったことだけです。金沢大学、富山大学、信州大学は受講者はあったのでしょうか？長野県看護大学はIPW 緩和ケアコース多職種協働事例検討会に多数の参加者があったことはわかりますが、この中でインテンシブコースとして単位を取得しようという人は何人か示して頂きたかったと思います。

・各大学がたくさんのセミナーを実施していますが、がんプロ主催・共催でないものが多数見られます。例えば、金沢がん哲学外来オンライン講演会(金沢大)、福井大学公開講座「いのちのこと」、第4回福井大学地域がん医療研修会(福井大学だけPDFファイルのため、下の方が重なっていて読めないので書いてあるのかもしれませんが)、小児・AYA世代がん患者交流会(信州大)、長野がん看護/家族看護研究会はがんプロの文字は見られず、参加者はがんプロ事業の一環で実施されていることがわからないと思います。また、名前を入れたらよいというものでもなく、多少なりともがんプロ教育を意識したプレゼンや運営をお願いいたします。

・3/20 回債の次世代北信がんプロ市民公開講座の視聴を申し込みましたが、ウェブ参加の連絡がなく、当日のメールで対応いただきありがたかったのですが、一般市民から参加希望があった時は、丁寧に応えて頂きたいと思います。

・ホームページの情報発信は大切ですが、北信がんプロのHPは少し不十分と思います。がんプロ学生向けのコースの説明や受講のしかた、E-ラーニングなどはわかりやすくいいのですが、一般市民向けの発信が弱いと思います。特に、セミナー、市民公開講座などのアナウンスは非常に poor であり、「売り物」のオンコロジーセミナーも示されていません(長野県看護大学の事例検討会だけ)。第3期がんプロまでの北信がんプロホームページはよくできていたので、市民向けの情報発信もがんばって下さい。それに比べて各大学のホームページはどれもわかりやすくよく出来ています。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 馬場英司

馬場英司

【評価結果】

問題や不十分な点はない。

一部問題や不十分な点がある。

全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

〔実施状況に関するコメント〕

・北信がんプロ事業を実施する体制として、参加6大学の学長連携協議会が設置されていることで、今後、医歯薬系だけでない広い分野との共同した教育体制が可能となると思われます。また運営協議会に医師会、自治体、患者会からの参加があることは、本がんプロ事業の活動の幅を広げて行くことに貢献できます。さらに事業運営にあたって、運営協議会の下部組織として教務、セミナー、データベース委員会が設置されており、それぞれの分野を管理していることから、より充実した事業運営が期待できます。委員会からのご指摘もありましたように、これらの仕組みが効率よく機能して、本がんプロ事業の向上に働いている具体的な内容を今後お示し下さい。

・金沢大学など複数のコースが設置されているのに対し、コース数が比較的少ない大学もあります。地域による大学院入学者数自体の多寡もあるかと思われますので、本がんプロ事業の実施にあたり、代表の金沢大学から参加大学へどのような協力が可能かの検討が望まれます。

・令和5年度は各大学とも新たながんプロプログラムの構築に取り組みされており、来年度からの新規履修生を迎えた教育の開始による成果が期待されます。

（優れた点）

・金沢大学は特に7つの大学院正規課程コース、3つのインテンシブコースを設置し、次世代のがんプログラムの求める人材養成に向けて成果が期待されます。

・富山大学では、循環器内科との共同で腫瘍循環器分野の専門家を育成するというコースを設置しており、目的が明確で期待できます。このコースが輩出する人材が今後どのようなキャリアを積んでゆけるかのビジョンも含めて提示頂ければありがたいです。

・福井大学の統合型がん医療専門医コースは、その名が示すように General な臨床腫瘍の専門家の育成が期待されます。ただこの基盤となるのは放射線治療専門家でしょうか。また履修生の募集のための方策をより明確にお示し頂ければと思います。

・金沢医科大学の次世代北信がんデータベース事業は、大学以外の拠点病院22施設も含んだ院内がん登録データとレセプト情報を収集する貴重な事業と思われます。研究の規模が大きいため、これががんプロ事業単独として実施されているのか、がんプロ履修生がこの事業にどのように関与して成果を上げているのかも今後お示し下さい。

・いずれの大学もセミナー、講習会、市民公開講座を積極的に開催して、履修生の交流や情報発信に努めています。

（改善を要する点）

上段の中に記載しました。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 牧野 智恵

（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

〔実施状況に関するコメント〕

- (1) 今年度、7月から 9 職種連携演習がスタートしているとのことで、その
 ステータスはすばらしいと思う。しかし、その開催が 11月からの様子を、できれば、
 もう少し早くスタートすれば、より良い連携演習ができたのではないと思う。今回の報告資料
 では、その具体的な内容がわかりにくいので、知りたかった。特に新しく加えた長野県立
 看護大学の事例検討会の中で他職種とのどのような連携がはかされたのかどうか？
- (2)

（優れた点）

- (1) 7月からスタートした事業で、それぞれの連携力が良い方向に育っている。
 (2) それぞれの大学の強みをいかそうとする姿勢が、構想だと思ふ。
 IT、医療、看護、キャリア、AYA 就労、高齢者、在宅緩和ケア、
 がん患者の学校への介入など、それぞれとも今のがん医療に必要な内容で、
 このプログラムで育成される成果を期待したいと思ふ。
- (2) 学長連携協議会のカバナンスをいかそうとする企画にならぬように
 期待する。

（改善を要する点）

- (1) 長野県立看護大学の「連携プログラム」が、4月から毎月開催されることになり、
 4月～7月までの期間、事業は尚途方もないと思ふが、ポスターも、
 かつ、共同の表示がなされる。
- (2) 今年は初年度としたので、その事業が 11月以降になること。できれば
 8月頃からスタートし、中間報告会もできるように、後半に値（こと）がなるように
 思ふ。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 河原昌美

（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

事業初年度であり、大学院の入学確保や事業成果が見えない中で、積極的に講演会や研修会を企画運営しており、計画への意欲が感じられる。一方、大学院正規コースやインテンシブコースの入学確保に対して、十分なメリットを発信しきれていない可能性が考えられる。「次世代のがんプロフェッショナル養成」の目指すところを、さらに強力に発信していくとともに、6大学連携の強化を図ることで、それを利点として魅力的な事業への発展を期待する。

（優れた点）

金沢大学：多方面にわたる講演会・シンポジウムの開始、やデジタルツールを用いた効率的な運営による連携強化の取り組みを開始

富山大学：市民公開講座を5回開催し、がん医療に関する啓発活動を積極的に実施

福井大学：緩和医療と栄養管理に特化して他職種連携を推進する体制整備

金沢医科大学：コミュニケーション技術研修会の開催とデータベース計画

信州大学：第3期事業から継続して、小児・AYA世代に焦点を当てた遺伝子的観点からの専門人材育成の取り組み

長野看護大学：魅力あるテーマの研修を積極的に開催し、研修の場を提供

（改善を要する点）

- ・各大学が独自に北信がんプロ事業の取り組みを計画しているため連携性が捉えにくい。
- ・人材育成が重要な事業の一つであるが、どのような大学院入学者を想定し、どのように募集するのか見えにくい。入学のメリットが見えるような啓発活動や、第3期までの修了者の活躍が見えるような取り組みがあるとよい。
- ・医師・歯科医師対象プログラムで、歯科医師に対する育成目標や確保が不足している。
- ・講演会、研修会、シンポジウムを多く企画しているが、それによって期待されるアウトカムが明確でない。
- ・一部の講演会や研修会等の案内で、「北信がんプロ共催」が記載されていないものがある。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 真島喜幸

【評価結果】

- 問題や不十分な点はない。
 一部問題や不十分な点がある。
 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

【実施状況に関するコメント】

次世代北信がんプロ活動状況報告：6大学が教育コース（正規課程14、インテンシブ10）を新設し、がん予防、病理診断、放射線・核医学治療、在宅緩和ケアと小児・AYA 世代がん経験者を支援する人材、さらに、新規免疫療法開発や個別化医療に必要なゲノム創薬・副作用対策を担う人材を（受入れ目標162名+319名）養成するとしている。また、多職種の地域内の連携のための演習、e-Learningを推進するとしている。

推進委員会からのコメント：優れた点、改善を要する点が明示されており、事業運営体制のガバナンスとPCDAサイクルの実施が望まれている。

（優れた点）

金沢大学：テーマ①に対して4本、テーマ②に関して4本、テーマ③に関しては3本のコースを計画しており、受入目標を（R6は29名）とした点は期待できる。シンポジウム、オンコロジーセミナー、講演会、市民公開講座などをオンラインで配信し、GoogleAnalyticsを用いてアクセス解析している点は評価できる。

信州大学：新たにテーマ②と③に関する修士・博士課程コースを設置する点は期待できる。特に受入れ目標10名とし、体内・体外遺伝子治療の開発をシーズからFIH治験まで進めることができる点、さらに知財化、ベンチャー起業にまで精通した人材を育成する点と評価できるし、米国ベイラー医科大学との人材交流にも期待したい。

富山大学：正規課程コースのなかにテーマ③の新規がん治療薬開発の研究者養成コースを新設し高度薬剤師5名を養成する計画は期待できる。市民教育・啓発事業にQRコードを導入している点は評価できる。

福井大学：正規課程コース1本は来年度から募集で目標医師10名。多職種向けインテンシブコースの2本は実績をあげており、目標数62名と積極的な点は評価できる。県民公開講座をハイブリッドで開催しており、YouTubeも活用している点は評価できる。

金沢医科大学：正規課程コース1本目標5名、インテンシブコース1本目標5名を計画しており、また、北信がんデータベース事業は教育プログラムの目標と地域毎の効果測定に活用できるよう整備されることに期待したい。

長野県看護大学；60名以上が参加するがん看護アドバンス研修、多職種を招いた事例検討会、がん看護/家族看護の研究会なども計画しており期待できる。

(改善を要する点)

・6大学のオンラインを使用したシームレスなネットワーク化を通し、より費用対効果を高いがんプロ事業の実施、運営、進行管理ができる体制を構築していくこと。特に、教育プログラム開発の効率化などの観点からDX/AI化を推進し、迅速化、省力化、低コスト化などの点で成果をあげることに期待したい。

・修了者が北信がんプロ認定機構より認定医、認定薬剤師に認定されるためにMostEffectiveな教育コースについて、受講者による評価があるとよい。受講者による評価をベースにPDCAを回し、コースの改善を進めることに期待したい。特にポピュラーな正規課程・インテンシブコースにランキングをつけて将来の受講者に対して公表してもよい。

・将来的には北信がんプロ養成プログラムのデータベース事業をベースとして、チーム医療、シームレスながん医療、地域内病診連携、在宅医療の充実、さらに北信がんプロの修了者・認定医・認定薬剤師などがケアする地域のがん患者のアウトカム(ePROを含む)、さらに高齢者機能評価指標(GA値)、健康寿命がどう変わってきているのかなどを考えるシンポジウムがあると良い。そのなかで、地域のがん医療の現状とがん患者のアウトカムなどについて、がんプロ関係者がディスカッションする機会をつくることができると良い。

・希少がんのような罹患患者数が少ない疾患領域では、各施設間のネットワーク活用によるキャンサーボードと共に、欧州のEURACANにみられるような「希少がん拠点病院」と各施設とがハブとスポークモデルで結ばれ、迅速に個別症例に対応できるシステムの構築も検討いただきたい。

(患者・家族・市民のための教育プログラムに関する要望)

・がん患者の声を吸い上げて、必要とされている情報を社会へ積極的に発信してほしい。

・ゲノム医療の入り口(がん遺伝子パネル検査、コンパニオン診断など)と出口(遺伝子変異にマッチした治療法、遺伝カウンセリングなど)に関する情報を積極的に発信していただきたい。

・市民公開講座やセミナーが各地域で複数回開催されている点は評価できるが、一部の大学のようにDX/YouTubeなどを活用し、広く他の地域の方も視聴できるような工夫があると良い。

・がん患者と家族のメディカルリタレシーとコミュニケーション能力向上に向けた教育プログラムも大切なので、Shared Decision Makingを視野に入れた取り組みも促進していただきたい。